

Daily comment

ボラティリティー高止まりでレンジ内での“乱高下”継続

年度末(四半期末)最終日のドル/円は、仲値に向けて 100.20 円まで買われたあと、欧州序盤と NY 中盤に 99.20 円処へ急落する場面がみられたが 99 円台割れは回避され、99 円 High へ引き戻されている。

市場ボラティリティーの高止まりもあって不安定な値動きとなったが、今週は米国で重要イベントおよび指標を控えており、一方向へ値動きを増幅する事態には発展しなかった。

今週の「FX - Technical outlook(全 29 頁)」では、ユーロ/ドルが 03/26 の長大陽線 (= 1.5583 1.5859) を抜けた方向に追従(順張り)するとのストラテジーを掲げたが、結果は 1.5859 ドルを抜けたあと上値は 1.5897 ドルで抑えられ、このあと 1.57 ドル Mid へ急落している。

最高値 1.5905 ドル(03/17)までわずか 0.0008 ドルに迫りながら失速しており、何とも納得しがたい結果となっているが、テクニカル的に重要な NY クローズは 1.5788 ドルと 03/26 の長大陽線を抜けるには至っておらず、「はらみ線」に基づく筆者の経験則は引き続き有効であるとみておきたい。

さて、週明けの米主要 3 株価指数が揃って上昇、NY ダウは 5 日ぶりに反発したものの、上げ幅は 46.49 ドルと過去 4 日間の下げ幅 332.24 ドルの 14% 弱を戻したに過ぎない。

この日発表された 3 月のシカゴ PMI 製造業景況指数が 48.2 と、前月の 44.5 や事前予想の 46.0 を上回ったことが好感されたものの、景気拡大・縮小の分岐点となる 50 を 2 ヶ月連続で下回っている。また本日発表の ISM 製造業景況指数は 47.5 と、2003 年 4 月以来の低水準が見込まれており、上値追いを慎重にさせているといえよう。

昨日は原油や金などコモディティー市場が全面安となっているが、現在の市場環境は根強い信用不安と景況感の悪化に覆われており、リスクマネーの収縮が一方向へのトレンド形成を困難にしているといえるかもしれない。

(レンジ内での乱高下が続くということ)



Pivot Index & Plays of This week

- ・ USDJPY: 転換線がNYクローズで破られる場合は「二番底」試す展開へ
- ・ EURUSD: 「はらみ線(隠線)」の出現で長大陽線を抜ける方向性が焦点に
- ・ EURJPY: 04/04は「転換線」の好転と「一期二節」が重なる変化日

2008 Mar. 28 NY Close	USDJPY	EURUSD	EURJPY	GBPJPY	AUDJPY	CADJPY
99.25	1.5797	156.79	197.91	91.01	97.08	
Resistance <1>	102.10	1.6184	161.33	203.64	94.06	100.23
<2>	100.67	1.5990	159.06	200.77	92.53	98.66
Pivot Point	99.62	1.5666	156.08	198.86	91.03	97.75
Support <1>	98.19	1.5472	153.81	195.99	89.50	96.18
<2>	97.14	1.5148	150.83	194.08	88.00	95.27
Direction & Formation	<大勢 波>	<中勢(5)->	<中勢(5)-4>	<中勢C波>	<中勢(3)-4>	<中勢C波> (代官波)
Weekly Strategy	逆/円 SL●100円Mid BY●98円Mid	順/円 03/26の長大陽線を抜ける方向に追従	逆/円 SL●158円Low BY●156円Low	順/円 SL●201円Mid BY●197円Mid	順/円 SL●92円Mid BY●90円Mid	順/円 SL●98円Mid BY●96円Mid
Target	Profit ± 30 ~ 70 Loss cut 30	Profit ± 30 ~ 70 Loss cut 30	Profit ± 30 ~ 70 Loss cut 30	Profit ± 40 ~ 80 Loss cut 40	Profit ± 30 ~ 70 Loss cut 30	Profit ± 30 ~ 60 Loss cut 30
Loss Cut						



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。

Forex Watch Kojiro Mori

ちょうど 1 年前に開催されたワシントン G7 では、「世界経済は過去 30 年超で最も力強い持続的拡大を経験している」との認識を示していたが、前回 2 月の東京 G7 では「世界はよりチャレンジングで不確実な環境に直面している」へ後退させている。

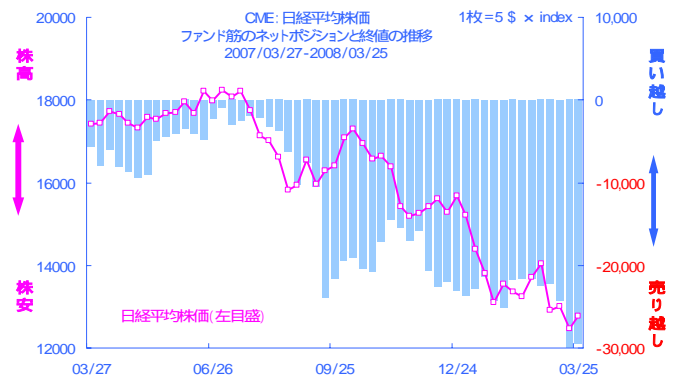
こうした状況下、CME 日経平均先物市場におけるファンド筋の持ち高は、過去最高水準の売り越しが継続している。

日本株は世界経済の敏感株の位置付けにあり、彼等が膨大な日本株売りのポジションを維持する間は、グローバル・マネーの復調による強気相場は見込めないといえよう。

昨日放送された NHK クローズアップ現代では「最新報告、アメリカ金融危機」と題して「ベアー・スターンズ・ショック」という米大手証券の事実上の破たん処理の舞台裏を採り上げ、万一、“救済合併”が遅れていたなら 3 月 17 日(月)のマーケットの混乱はより深刻化していた可能性が指摘されていた。

インタビューに応じていた識者は、現在の状況を「第二次大戦後、最も危険な危機」と解説していたが、現在のマーケットが警戒モードにあることは念頭に置いておきたい。

(4 月 1 日 11:35 記)



当レポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を意図するものではありません。投資の決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。記載された意見や予測等は、作成時点における 森 好治郎 個人の見解であり、その正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることもありますのでご注意ください。